

10. 令和5年度 千葉県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

千葉県循環器病センター 脳神経外科 青柳 京子

まとめ

令和5年度も千葉県循環器病センターは千葉県てんかん支援拠点病院に指定され、てんかん地域診療連携体制整備事業活動は4年目を迎えた。COVID-19感染による制限が緩和され、ハイブリッド開催での市民公開講座開催を通しての啓蒙活動や、症例検討会への参加者数・参加施設数の増加、外来患者数や手術件数の増加など、昨年度を上回る実績を上げることであった側面もあった。

1. 診療に関する事業

1) 診療実績

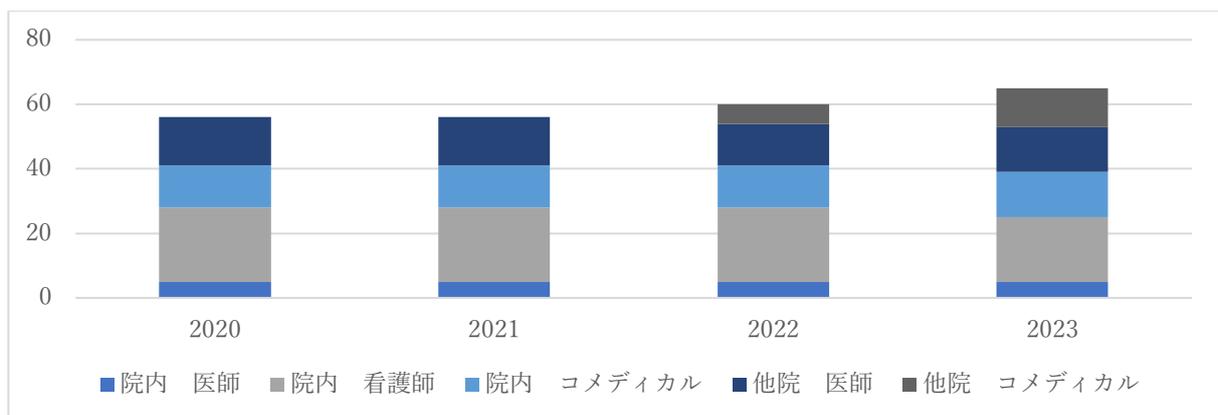
令和3年度まではCOVID-19感染拡大を受け診療の制限を受けていたが、令和4年度は感染対策とてんかん診療の両立への取り組みを行い、各指標ともに昨年度までの実績を超え、目標値を上回った。令和5年度も昨年度同様目標値を上回る見込みである。

2) 診療連携・患者支援に向けての取り組み

今年度はコーディネーターが各部門と連携した患者相談対応に力を入れ、外来・病棟看護師や社会福祉士と連携し相談支援を行った。外科治療を受ける患者や家族に対して外来から入院まで継続した面談を行うことで心理的支援に努めた。電話相談業務においては通院中の患者・家族以外にも、行政や学校関係者からの相談にも対応し、受診につながるケースも多かった。基幹相談支援センターからの依頼によりてんかん患者の個別ケース会議へ参加し、てんかんを持つことにより生活に困難を感じている患者・家族を地域の支援者と連携し、地域で生活続けることができるよう支援を行った。また、就労支援の一環として地域若者サポートステーションへの訪問を行っててんかん患者の支援につなげる連携を行った。昨年同様顔の見える関係の構築を目的とし、コーディネーターが地域包括実務者会議、中核地域生活支援センター会議、地域包括ケアシステム構築推進事業者会議へ参加した。

3) 多職種・多施設によるてんかん症例検討会開催

平成30年のてんかんセンター設置以来、院内の多職種（脳神経外科医・精神科医・脳神経内科医・看護師（看護局・病棟・外来・手術室）・薬剤師・栄養士・社会福祉士・言語聴覚士・理学療法士・放射線技師・臨床検査技師・事務局）による症例検討会を開催し、診断・治療のみならず、家族背景への配慮や社会福祉資源の活用も含めた検討を重ねてきた。令和2年度よりZoomを用いたオンラインカンファレンスを導入し、多くの施設の多職種の参加者にご参加いただき、各症例についてより活発な議論がなされた。（現在 院内 39名、院外 26名が参加登録）



症例検討会参加者推移

表1 症例検討会参加者

施設名	医師（診療科）	コメディカル
千葉県循環器病センター	脳神経外科、脳神経内科、精神科	看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師、放射線技師、社会福祉士、公認心理師、言語聴覚士、作業療法士、事務
浅井病院	精神科	
東邦大学医療センター佐倉病院	小児科、精神科	
千葉大学医学部附属病院	小児科、脳神経外科	臨床検査技師
木更津病院	精神科	
行徳総合病院	脳神経外科	言語聴覚士、公認心理師、薬剤師
国際医療福祉大学成田病院	脳神経内科、精神科	
亀田クリニック	精神科	
セコメディック病院	脳神経外科	
高根病院		臨床検査技師

4) 外来医師派遣・オンライン診療導入

てんかんは有病率の高い疾患であるにもかかわらず専門医療へのアクセスが困難であることが課題となっている。一般の脳外科医・神経内科医・精神科医で診断・治療に難渋する症例は当院への紹介を勧めているが、当院の交通アクセスが不良であることから患者が受診を希望しないという現状もある。このため、これまでの千葉大学医学部附属病院に加え、令和3年1月より済生会習志野病院への医師派遣を開始し、てんかん専門外来を開設した。

同様に遠方からの通院患者に対しオンライン診療を用いて頻繁に外来受診を行うことで、服薬コンプライアンスの向上と適切な薬剤コントロールを図るべく、令和3年4月よりオンライン診療システムを導入した。今後、遠隔連携診療料の対象となる医療機関同士の連携体制の構築も計画している。

2. 教育・啓発活動に関する事業

1) ホームページ開設

令和2年4月に病院ホームページ内に脳神経外科から独立しててんかんセンターのホームページを開設し、てんかんセンター、てんかんの診断や治療についての情報を掲載した。下記3)のパンフレットのPDF掲載や研修会案内を適宜アップロードしたところ、アクセス数が増加した。また、患者・患者家族が自身でホームページの情報を検索し、専門診療問い合わせや新規外来紹介受診につながる例も多数みられ、外来患者数の増加に寄与した。

2) 研修会・公開講座開催

今年度4回の研修のうち9月および2月開催の市民公開講座は現地開催とWEB開催のハイブリッド開催とした。第1回市民公開講座は、千葉ペリエでの現地開催し「女性とてんかん」をテーマとした。現地・オンライン合わせて49名にご参加いただき、現地で専門の医療関係者から直に話を聞けることについて高い評価を得た。また、令和5年2月17日の第2回市民公開講座は最新の外科治療などをテーマとして当院での現地開催を行い、現地参加29名、オンライン参加76名、合計105名にご参加いただいた。医療関係者向け研修会は、第1回は脳波検査、第2回はトランジションをテーマとして取り上げた。来年度以降、継続して同様の企画を継続する予定である

表2 R5年度研修会・公開講座開催実績

研修区分	日付	テーマ	参加人数
医療関係者向け研修会	令和5年7月22日	なんとかなる?なんとかしよう!てんかんプライマリケア<ステップ2>~てんかん臨床の壁を崩そう!脳波を楽しむ!~	42
市民公開講座	令和5年9月30日	てんかんを知ろう!その1:女性とてんかん	49
医療関係者向け研修会	令和5年12月16日	なんとかなる?なんとかしよう!てんかんプライマリケア<ステップ3>てんかん臨床の視野を広げるトランジションという課題:包括的視点から	30

市民公開講座	令和6年2月17日	てんかんを知ろう！その2： てんかん治療を巡る多様な側面	105
--------	-----------	---------------------------------	-----

3) パンフレットの作成・配布

令和2年度に作成した外来患者向けパンフレット「てんかんと診断された方へ」「てんかんの外科治療について」「災害への備え」を外来に設置するほか、ホームページからPDFとしてダウンロードできる形で公開している。今年度、「てんかんとメンタルヘルスについて」のパンフレットを作成中であり、来年度、ホームページへのアップロード及び外来設置を予定している。

3. 教育・研究に関する事業

1) 千葉大学医学部附属病院との連携

脳神経外科研修医向けレクチャーや脳神経外科・小児科との合同症例検討会を行っている。

2) 京都大学脳神経内科学教室との共同研究

硬膜下電極記録、脳深部電極記録の解析をテーマに共同研究を開始した。

3) 学会活動

日本てんかん学会、日本てんかん学会関東甲信越地方会、日本てんかん外科学会などで日頃の研究成果を報告した。特に以下のシンポジウムでは、千葉県での施設提携による包括的専門医療構築の試みについて紹介する機会を得た。

日本てんかん学会 委員会企画4 てんかん専門医療施設検討委員会
 テーマ：包括的なてんかん診療提携のあり方とてんかん専門医療施設の課題
 演題名：「施設提携による包括的なてんかん専門医療のあり方」

日本てんかん外科学会 シンポジウム4
 テーマ：てんかん外科と精神症状：院内外リハビリテーション・多職種連携の構築
 演題名：「てんかん外科診療における精神医学・心理学的視点：精神科との連携構築」